

# 朝鮮で建設する社会主義経済強国の重要特徴

朝鮮社会科学院経済研究所室長  
金応浩

## はじめに

社会主義強国建設を志向し、闘争している朝鮮において、こんにち、経済強国建設は党と国家が総力を集中する基本戦線になっている。朝鮮はすでに政治軍事的威力を世界的水準に引き上げた強国である。今後、経済と科学技術、文化分野において強国建設を促すことで、名実共に社会主義強国を建設したと言えるようになる。

朝鮮労働党委員長であり、朝鮮民主主義人民共和国国務委員会委員長である敬愛する最高指導者、金正恩同志は、昨年5月に行われた歴史的な朝鮮労働党第7回大会において、社会主義強国建設で立ち向かう重要課題を提示すると同時に、社会主義経済強国の面貌と本質の特徴について明確に示した。

金正恩同志は次のように述べた。

「我々が建設する経済強国は自立性と主体性が強く、科学技術を基本生産力とし、発展する国です。国防建設と経済建設、人民生活に必要な物質的手段を自ら生産保障し、科学技術と生産が一体化し、先端技術産業が経済成長において主導的役割を果たす自立経済強国、知識経済強国がまさに社会主義経済強国です」。

## 1. 社会主義経済強国の特徴

朝鮮で建設する社会主義経済強国の重要な特徴は、何よりもまず、自立性と主体性が強い国、自立経済強国だということである。経済の自立性、主体性を確固として保障することは、朝鮮が社会主義経済強国建設において掲げている重要な目標の一つである。経済の自立性、主体性は、朝

鮮民主主義人民共和国の指導思想であるチュチェ思想にその基礎を置いている。朝鮮では、政治と経済、国防など社会生活のすべての分野が、金日成同志が創始したチュチェ思想を指導的指針とし、建設されている。

自主性、創造性、意識性を持つ社会的存在としての人の本質的特性に対する科学的解明と、人があらゆるもの主人で、あらゆるものを決定するというチュチェ思想の哲学的原理に基づいて、人類社会の発展の歴史が、自主性を実現するための人民大衆の闘争の歴史であるという、社会歴史発展の原理が明言される。それに従って、人民大衆の自主性を完全に実現するためには、社会生活のすべての分野において、自主的立場を確固に堅持すること、言い換えれば、政治においては自主、経済においては自立、国防においては自衛の原則を徹底的に具現することが、まさにチュチェ思想が示している革命と建設の指導的原則である。

朝鮮はすでに解放直後から、チュチェ思想の要求を経済分野で具現するために、自立的民族経済建設を戦略的路線の一つとして提示し、社会主義基礎建設時期<sup>1</sup>と社会主義工業化時期<sup>2</sup>に、すでに重工業を優先的に発展させつつ、軽工業と農業を同時に発展させるという、社会主義経済建設の基本路線を確固として掲げ、工業化と歴史的課題を遂行する過程で、重工業を核心とする多面的で総合的な経済構造、自らに要求される基本的なものを自らの力で保障できる自立的な経済の土台を作り出した。朝鮮ではその後も6カ年人民経済計画と第2次、第3次7カ年人民経済計画遂行過程を通じて、人民経済の主体化をより一層高い水準で実現してきた。

朝鮮が1990年代、自らの思想と制度を守れるか守れないかの瀬戸際となる峻厳な時期においても、社会主義の旗じるしを変わることなく固守し、勝利的に前進させることができた物質的基礎に、まさに解放後から一貫して築いてきた、しっかりと物質技術的土台、重工業に基づいて国防工業が重要な位置を占める、自立的な経済の土台が存在した。

こんにち朝鮮においては、経済の自立性、主体性をより一層強化し、経済がどのような外部的波動にもびくともせず、持続的な発展を確固として保証することを、経済強国建設の重要な目標として掲げている。現時期、朝鮮で掲げている経済の自立性、主体性を強化するという目標は、以前の自立的民族経済を建設するという課題と比べると、より高い要求、自立的経済強国の高い目標を提起している。

朝鮮は解放後、民主主義革命と社会主義革命を通じて、社会主義制度を建設し、社会主義経済建設を促しつつ、経済の自立性保障を一貫して重要な問題として提示し、その実現のために闘争してきた。これと同時に、1990年代初までは、主に世界社会主義経済体系が維持されていた時期であったため、コークスや原油、ゴムなど一部の戦略物資を、社会主義世界市場を通じてある程度解決し、自立経済の土台をしっかりと固めることに活用した。

しかし、1980年代末～90年代初において、世界社会主義体系が崩壊し、社会主義世界市場がなくなると同時に、これらの戦略物資の解決が困難になりはじめ、特に21世紀に入って、自衛的国防力を強化し、宇宙科学技術を発展させるための朝鮮の正々堂々たる措置を対象として、より強化される米国をはじめとする追従勢

<sup>1</sup> 1957年に開始し、60年に繰り上げ達成された「5カ年計画」時期にあたる。

<sup>2</sup> 1961年に開始し、70年まで3年間期間が延長された「第1次7カ年計画」時期にあたる。

力の経済制裁策動により、戦略物資は勿論、人民生活に必要な物資まで適時に輸入することが難しくなった。

自主性を生命とみなす朝鮮人民は、他人が必要な物資を与えてくれないとしても、決して社会主義強国建設を諦めず、このような状況になればなるほど自力更生、艱苦奮闘の精神をより一層発揮し、すべてを自ら解決していく原則を一貫して堅持している。

現時期朝鮮が掲げている、経済の自立性と主体性をあらゆる手を尽くして強化し、自立経済強国を建設すること、これはチュチェ思想の要求であり、朝鮮労働党と国家、人民の確固たる意志であり、まさにこの変化した現実に対処し、わが人民の要求と利益を徹底的に保証し、どのような外部的な制裁と経済波動にもびくともせず、安定的かつ持続的に発展していく経済、朝鮮で建設する経済強国の面貌であり、重要な特徴の一つである。

## 2. 経済の自立性と主体性の確保

こんにち朝鮮では、経済の自立性と主体性を保障するうえで、まず原料と燃料、設備の国産化を中核的な問題として掲げている。原料と燃料、設備の国産化は、経済の自立性と主体性を保障するうえで最も重要な問題の一つであり、これを評価する重要な指標にもなる。経済発展において、戦略的意義を持つ原料と燃料を国内資源で保障する生産技術工程を確立し、先端設備をはじめとする切実に要求されている技術手段をわが国の実情に即して自ら生産保障していくことは、朝鮮が原料と燃料、設備の国産化を実現するうえで提起される重要な課題である。これと同時に、近代的技術を土台として、基礎工業部門の主体化水準を高め、国の資源を総合的かつ効果的に利用し、原油をはじめとする重要な資源を積極的に開発することも、原料と燃料、設備の国産化と関連している重要な課題である。

こんにち朝鮮では経済の自立性と主体性を保障するうえで、エネルギー・動力問題と食糧問題を自ら解決することを重要な問題として掲げている。エネルギー・動力問題と食糧問題は、経済の自立的で持続的

な発展を成し遂げるうえで鍵となる意義を持つ。朝鮮ではエネルギー生産を経済成長に確固として優先させる方向で、動力基地建設を展望性をもって推進していくことを計画している。水力を主としつつ、火力による電力生産を合理的に配合し、原子力発電の比重を高め、多様な自然エネルギー源泉を積極的に利用し、国家的なエネルギー需要を充足させることに力を入れている。これと同時に、最新科学技術に基づいてエネルギー生産方式を改善し、国の経済をエネルギー節約型に転換することにも力を入れている。

食糧の自給自足を実現するために、食糧生産を持続的に増やし、農業を世界先進水準に引き上げることを重要な課題として掲げている。また、こんにち朝鮮では経済の自立性と主体性を保障するうえで、経済発展と人民生活で提起される物質的需要を国内生産で保障できる、多面的で総合的な経済構造を備え、不断に改善完備することを重要な課題として掲げている。

## 3. 知識経済強国建設

朝鮮で建設する社会主義経済強国の重要な特徴は次に、科学技術を基本的な生産力として発展する国、科学技術と生産が一体化し、先端技術産業が経済成長において主導的な役割を担う知識経済強国だということである。科学技術を基本的生産力として発展する国、科学技術と生産が一体化し、先端技術産業が経済成長において主導的な役割を担う知識経済強国を建設することは、朝鮮が経済強国建設において掲げているもう一つの重要な目標である。

知識経済強国の建設は、朝鮮労働党が、科学技術が急速に発展し、知識の力を土台に成長する知識経済時代の要求を反映させて提示する、経済強国建設の重要な目標である。科学技術の発展がすべての部門の発展を推進し、科学技術の高みによって、社会全般の発展の高みと速度が規定されるこんにち、科学技術を速く発展させ、先端科学技術に基づいて科学技術と生産の一体化を実現し、先端技術産業が経済成長において主導的役割

をする知識経済強国を建設してこそ、経済と人民生活に必要なすべての製品を、世界的水準で決心したとおりに作り出す、近代的で情報化された物質技術的土台を備えた国、知識経済時代の経済強国を建設することができる。

こんにち朝鮮が、経済強国建設において提起している知識経済強国の建設は、前世紀で行われていた人民経済の近代化とは比べられない高い目標を提起している。朝鮮では前世紀において、時代と革命発展の要求に即して、人民経済の近代化を実現するための闘争を力強く繰り広げてきた。われわれは朝鮮戦争後、米国により無惨に破壊された経済を短期間で速く復旧させ、工業化の基礎を作り、全面的に実現する段階の課題遂行を通じて、国の経済を工業経済時代の面貌に合う社会主義工業国家に変え、その後数回にわたる人民経済発展の展望計画遂行を通じて、国の物質経済的土台をより近代的な水準に一層引き上げた。

しかし、科学技術の急速な発展とともに、世界的に知識と情報に依拠し発展する新しい時代、知識経済時代が到来し始め、時代の変化は、経済強国の物質的土台もそれに即して高い水準で固めていくことを求めた。人民経済の近代化、情報化を推進し、国の経済を知識経済に転換させることについての朝鮮労働党の政策は、まさに時代発展の要求を正確に反映した最も正当な政策である。

こんにち朝鮮が掲げている人民経済の近代化、情報化を実現する戦略的目標は、すべての生産工程を自動化、インテリジェンス化し、工場、企業所を無人化するということである。

朝鮮では人民経済の近代化、情報化を実現し、知識経済強国を建設するために、まず新世紀において産業革命を力強く推進し、人民経済全般を近代的技術に改善し、すべての部門を先端水準に引き上げることを重要な闘争課題として提示している。特に、統合生産体系は無人操縦体系を確立し、緑色生産方式をはじめとする先進的な生産方法を取り入れ、重要な経済技術指標を世界先進水準に引き上げ、不断に改善していくことに力を入れている。

朝鮮では人民経済の近代化、情報化を実現し、知識経済強国を建設するために、また知識経済の下部構造を強力に構築し、すべての部門において現代科学技術を積極的に取り入れ、科学と技術、知識が生産を主導する経営管理体系を確立し、工場、企業所の生産と技術管理工程を開発創造型に転換させるなど、人民経済すべての部門で、科学技術と生産の一体化を実現していくことを重要な闘争課題として提示している。

朝鮮では人民経済の近代化、情報化を実現し、知識経済強国を建設するために、また情報産業、ナノ産業、生物産業のような知識経済の支柱である先端技術産業を大々的に創設し、国の経済発展において、先端技術産業が占める比重と中枢的役割を高めていくことを、重要な闘争課題として掲げている。

#### 4. 社会主義文明国、社会主義富貴栄華の実現

朝鮮で建設する社会主義経済強国の重要な特徴は、次に人民に富裕で文明的な生活を保障する、人民の楽園であるということである。生産力の発展水準と国民所得が高い国というだけでなく、人民に富裕で文明的な生活を保障する人民の楽園だということに、朝鮮で建設する社会主義経済強国の真の面貌と本質の特徴がある。朝鮮経済は集団主義を思想的基礎とし、生産手段に対する社会的所有に基づく社会主義経済であり、その主人は勤労人民大衆である。人民生活を絶えず向上させることは、社会主義経済制度の本性的要求で、朝鮮労働党と政府が始終一貫して堅持している活動原則である。情勢の変化と革命発展の要求に従って、どの部門を優先的に発展させるかには差異が生じ得るが、人民生活を絶えず向上させることについての社会主義経済建設の根本的目的は変わらない。

人民に富裕で文明的な生活を保障する、人民の楽園を建設することに対する目標は、まさに社会主義経済の本性的要求であり、党と国家の活動原則を時代的高

みで具現している朝鮮の経済強国建設の重要な目標である。朝鮮では経済建設の中で現れるすべての問題を人民大衆の自主的要求と利益を基準に解決していくことを、最優先の重要な原則として掲げている。

朝鮮では人民に富裕で文明的な生活条件を保障するために、まず人民生活に直接服務する部門の発展を重視し、その実現のための明確な闘争課題を提示している。特に、国家経済発展5カ年戦略期間中、工業と水産業、軽工業部門において生産と突撃戦を力強く繰り広げ、人民生活向上の突破口を切り開くことを計画している。

農業部門において、農産と畜産、果樹業を発展させるための部門別課題を提示した。農業部門において、優良品種をより多く育種し、地方別、品種別需要に即し種子生産を推進すること、地帯的特性と自然気候条件に即し作物と品種配置を正確にし、農作物の施肥管理において科学技術的要求を徹底的に守り、先進的な営農方法を積極的に取り入れること、有機農業を奨励し、環状循環生産体系を確立することなど科学農業の熱風を巻き起こすことに力を入れる。農業部門を発展させ、農業勤労者により便利な労働生活条件を保障するために、農村における生産の総合的機械化を本格的に推進し、短い期間内に農作業の機械化比重を60~70%の水準に引き上げることを計画している。

畜産部門において、家畜種子と飼料問題を解決し、飼養管理を科学的に行い、獣医防疫対策を徹底的に立て、畜産物生産を伸ばし、草食家畜の飼養を群衆的運動で展開し、協同農場の共同畜産と農村世帯の個人畜産を発展させ、全国各地で畜産の熱風が巻き起こるようにする。

果樹部門において、果樹業の集約化、科学化水準を高め、果物生産を伸ばし、全国随所に建設されている野菜温室とキノコ工場の生産を正常化し、人民がその恩恵を被るようにする。

水産部門において、漁船と漁具を近代化し、先端科学技術に基づいて気象予報、海上指揮、魚の加工体系と設備及び

電力監視体系、船の修理体系を完璧に構築し、年中海を休ませずに積極的な漁労戦を繰り広げ、大漁を実現することに関する課題を提示した。

軽工業部門もにおいて、知識経済時代の手本となる工場を建設し、原料、資材の国産化を実現し、生産を活性化し、消費品に対する人民の需要を保障することに関する課題を提示した。

新製品開発と質向上に力を入れ、世界的水準の多様な軽工業製品をより多く生産し、地方において昌城連席会議<sup>3</sup>精神を具現し、自力で経済的問題を解決していくための作戦を周到細密に立て、地方経済の特色を発展させることなど、軽工業発展の具体的課題を提示した。朝鮮では、人民に富裕で文明的な生活条件を保障するために、また勤労者たちに立派な労働生活条件と物質生活条件を提供し、党と国家の人民的施策を拡大していくことを重要な闘争課題として掲げている。無償治療制と無料義務教育制をはじめとする人民的施策は、朝鮮式社会主義の優越性を集中的に具現している施策であり、社会主義強国建設が進展し、経済が発展するにつれ、それらはより一層拡大していく。

#### 5. 科学技術の重視と生産への応用

科学技術を前面に押し出していくことは、朝鮮が社会主義経済強国の高い目標を成果的に達成できるようにする、もう一つの重要な保証である。科学技術の時代、すなわち科学技術の発展水準が国の総合的国力と地位を規定する兆候となっているこんにち、帝国主義者たちの経済技術的封鎖を壊し、自強力を急激に増大させ、すべての部門を速く発展させるうえで、科学技術はその生命線となる。

朝鮮は、国の全般的な科学技術が世界先端水準に達した国、科学技術の主導的役割により、経済と国防、文化をはじめとするすべての部門が急速に発展する科学技術強国を建設することを、社会主義強国建設においてまず到達しなければならない重要な目標として規定し、科学技術

<sup>3</sup> 1962年8月に平安北道昌城郡で開かれた地方工業を発展させるための会議。

強国建設に拍車を加え、短期間に国の科学技術発展で新たな飛躍を成し遂げ、科学で栄える時代を切り拓き、社会主義経済強国建設において革命的転換をもたらす。

## 6. 自力自強と自強力第一主義

こんにち朝鮮では、社会主義経済強国を建設するための闘争は、自力自強の精神と科学技術を掲げ、人民経済の主体化、近代化、情報化、科学化を高い水準で実現し、人民に富裕で文明的な生活条件を提供することについての朝鮮労働党の経済強国建設のための戦略的路線を指針に展開している。自力自強の精神、自強力第一主義は朝鮮が社会主義経済強国の高い目標を成果的に達成できるようにする根本的な保証を提供する。

自強力第一主義は、自らの力と技術、資源に依拠し、主体的力量を強化し、自分の前途を開拓していく革命精神であり、朝鮮革命の歴史は自強力で開拓・勝利してきた歴史である。自分の運命の主人は自分自身であり、ただ自らの力で自分の運命を開拓しなければならないとする、金日成同志と金正日同志の自力自強の精神が、朝鮮人民を不可能を知らない精神力の最強者に成長させ、朝鮮を誰もが無視できない不敗の強国に転換させた。

事大と外勢依存を排撃し、社会主義強国建設を自らの力と技術、資源に依拠し、自力更生、艱苦奮闘の革命精神で推進していくこと、まさにこれが朝鮮労働党と政府、朝鮮人民の確固たる意志であり、経済強国建設において一貫として堅持している原則であり、経済強国建設の高い目標を成果的に達成するための根本的な保

証もここにある。

## おわりに

朝鮮の社会主義経済強国建設のための闘争には依然として、多くの隘路と難関が横たわっている。しかし、朝鮮労働党の老練した指導の下で、すべての経済問題を、確固たる主体的立場から、わが人民の自主精神と創造精神、科学技術の威力に依拠し、解決していく原則を一貫として堅持する限り、その勝利は確定的である。朝鮮人民は必ずや、自らの力で国力が強く、絶えず隆盛繁栄し、人民が世の中にもうらやむことのない幸せな生活を思う存分に享受する社会主義強国を立ち上げるであろう。

[朝鮮語原稿を ERINA で翻訳]